

新人看護師教育へのシミュレーション教育の導入  
～教育担当者によるシミュレーション教育の実践と評価～

中寫真知子<sup>1</sup>、曾我典子<sup>1</sup>、倉ヶ市絵美佳<sup>1</sup>、笹川寿美<sup>2</sup>、光木幸子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>京都府立医科大学附属病院、<sup>2</sup>京都府立医科大学医学部看護学科

【目的】医療技術の進歩に伴い、臨床現場では、安全で質の高い看護を提供することが求められており、専門的な知識・技術・態度の統合を訓練できるシミュレーション教育を新人教育に導入する必要性が高まっている。A病院でも2010年度から、新人看護師教育として各部署の新人看護師教育担当者（以下教育担当者）によるシミュレーション教育を導入した。終了後の調査から、シミュレーション教育の評価を行い、今後の課題を明らかにする。

【方法】教育担当者25名に対しシミュレーションについて研修を行い、部署単位で一例実施することを義務づけ、報告会を行った。その後、所属部署のみ記入する自己記入式調査票を配布し回答してもらった。調査内容は、「新人看護師指導における有効性（以下有効性）」の5段階評価とその理由、「実施するうえで困ったこと」の有無とその内容、「今後の課題」についてである。

倫理的配慮：調査の協力は自由意志であり、用紙の記入の有無に関らず不利益を被らないこと、個人情報の保護について説明し、調査票の提出をもって同意を得たとした。集計時には、個人が特定できないよう所属部署を削除して集計した。

【結果】調査票の回収は、100%であり、すべて有効であった。有効性は「効果があった・少し効果があった」合わせて92%と高く、その理由として「新人看護師の現時点での到達状況が把握でき、今後の課題が明確になった」、「未経験項目を経験、練習できるのは良かった」と記載していた。また、「実施するうえで困ったこと」は「あり」が84%で、その内容は「実施場所の設定、リアリティー感を出すための環境調整・シナリオ設定」などであった。「今後の課題」では、「シナリオはひとつだけでなく、新人看護師の成長段階に応じて作成していく」「スタッフ全員がシミュレーション教育を理解し、実践に近い状態・状況で行なえるようにしていく必要がある」という内容であった。

【考察】教育担当者は、実施上の困難を感じながらも、シミュレーション教育が新人看護師教育に有効であると実感していた。新人看護師は、模擬的な臨地環境のなかでその場に即した看護を行い、実践力を高める機会を得ていたと考える。一方、教育担当者は、新人看護師の成長段階に応じたシナリオを用いて教育することで、新人看護師の現状が把握できたと考える。今後の課題は、よりリアリティーのあるシミュレーションが実施できるように、実施場所の設定を含めた環境の調整やシミュレーターの利用を検討していく必要がある。（本報告は、文部科学省平成21年度助成事業「看護職キャリアシステム構築プラン」の一部である。）